

僕はドラマーです。2021年 5歳からドラムのレッスンを受けていて、特にロックがとても得意です。ドラムを習い始めたきっかけは、YouTubeで「マイキー」が日本一大きなドラムセットで、その当時流行っていたアニメ 鬼滅の刃の主題歌「紅蓮華」を演奏しているのを見たことです。お兄ちゃんとおハマりしてしまい、二人とも数ヶ月後にはレッスンを開始していました。今日はそのドラムについて調べました。

人が物をたたいて音を出したり、表現をするようになったのは、原始時代からだと言われています。大地をふみ鳴らしたり、身体を打ち鳴らしたりしたことからはじまったといわれています。物を叩いて音を出すことは、遠くの人と交信する手段としても発達しました。また宗教的な儀式などでは、人々の心を動かす手段としても使われました。

スネアドラム(小太鼓)、バスドラム(大太鼓)、シンバルなどの打楽器をセットにして一人が演奏する「ドラムセット」が登場したのは19世紀末のことと言われています。ディー・ディー・チャンドラーという人が最初のきっかけを作ったと伝えられています。チャンドラーは、右足でペダルを踏んでバスドラムを打つ方法を考え、大太鼓と小太鼓をひとりでこなして人気を集めたそうです。それまでは大人数でリズムを作っていたので、これによって少人数のバンドが可能になりました。

チャンドラーがドラムセットを考え出した理由は「演奏してもらえるお金の欲しさに1人で2人分の演奏をするためにドラムセットを作った」や「バスドラム担当の人とケンカをして1人で演奏せざるを得なくなったためにドラムセットを作った」などと言われています。

これが一般的なドラムセットです。

一番左にあるのはハイハットです。
リズムを細かく分けるシンバル。
ペダルで開閉して音を変えられる。

すぐ横にある高いシンバルは、
クラッシュ・シンバルです。
フレーズにアクセントをつける
シンバルです。

一番右側にあるシンバルは
ライド・シンバルです。
ハイハットと同様にリズムを分ける
一番大きいシンバルです。



中央奥にあるペアの小太鼓は
タムタムです。
フィルインなどのフレーズを盛り上げる楽器です。

左側にある小太鼓は、スネアドラムです。リズムの中心になる楽器です。

右側にある大太鼓は、フロアタムです。床に置くのでフロアタムと呼びます。音程が一番低い楽器です。

中心にある大太鼓はバスドラムです。一番大きく、音が低いです。リズムの中心になる楽器です。キックペダル、またはダブルペダルを使って片足、または両足で演奏します。

ドラマーは、しばらくの間、効果音や伴奏がほとんどで、主にうらかたの仕事をしていましたが、ドラマーの地位を一気に高めるスター達が1930年代に誕生しました。1936年にビッグバンドのリーダーを務めていた「ベニー・グッドマン」氏が発表した「Sing Sing Sing」が人気を博してからスウィングジャズがとても流行り、ビッグバンドのドラムを担当していた「ジーン・クルーパ」氏や「バディ・リッチ」氏、「ルイ・ベルソン」氏などのドラマーが一気に有名になりました。この人たちは左手は中指と薬指の間入れる持ち方で、右手は普通の持ち方でしていました。

日本で有名なドラマーは、BOOWYの高橋まことさん、X JapanのYOSHIKIさん、そして、先にお亡くなりになった ルナシーの真矢さんです。

五年間ずっとドラムをしていたのに、タムタムなどのドラムの名前を知らなかったのが今知る事が出来て良かったです。これからもドラムを続けていくと思うので、楽器の事を知ることができて良かったです。